

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位
対象学年組： 第 1 学年 A 組～ G 組
教科担当者： (A・B・F組：平林 C・D組：濱口 E・G組：駒井)
使用教科書： (新編数学A (数研出版))

教科 数学 の目標：
【知識及び技能】 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 場合の数と確率 【知識・技能】 ①集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 【思考・判断・表現】 ①事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①場合の数と確率の性質やそれに関わる定理・公式のよさを認識し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。	・指導事項： 集合・場合の数 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				10
	定期考査			○	○		1
	第1章 場合の数と確率 【知識・技能】 ②具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①場合の数と確率の性質やそれに関わる定理・公式のよさを認識し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。	・指導事項： 確率 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				8
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第1章 場合の数と確率 【知識・技能】 ③確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ②確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。【主体的に学習に取り組む態度】 ②場合の数と確率の性質やそれに関わる定理や公式を導くことやそれらを活用した問題解決において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。	・指導事項： 確率 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	10
	定期考査		○	○			1
	第1章 場合の数と確率 【知識・技能】 ④独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。⑤条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ③確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ②場合の数と確率の性質やそれに関わる定理や公式を導くことやそれらを活用した問題解決において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。	・指導事項： 確率 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	8
	定期考査		○	○			1
3 学 期	第2章 図形の性質 【知識・技能】 ①三角形に関する基本的な性質について理解している。②円に関する基本的な性質について理解している。③空間図形に関する基本的な性質について理解している。 【思考・判断・表現】 ①図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。②コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①図形の性質やそれに関わる定理・公式のよさを認識し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。②図形の性質やそれに関わる定理や公式を導くことやそれらを活用した問題解決において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。	・指導事項： 三角形の性質・円の性質・作図・空間図形 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	13
	定期考査		○	○			1
							合計
							54

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅰ

教科： 数学 科目： 数学Ⅰ 単位数： 3 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ G 組

教科担当者：（ A・B・C・D・E・F・G組：駒井、濱口 ）（ A・B・C・D・E・F組：石川 ）

使用教科書：（ 新編数学Ⅰ（数研出版） ）

- 教科 数学 の目標：
- 【知識及び技能】 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計算、二次関数およびデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	数学を活用して事象を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフに関連付けて考察する力を身に付けている。	数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 数と式 【知識及び技能】 ・数式に対していろいろな見方をすることができる。 ・式の展開と因数分解の相互の関係が分かる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・乗法公式や因数分解の公式などを目的に応じて処理することができる。 ・見通しを持って式を展開したり、因数分解することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・式の展開や因数分解に関心をもち、目的に応じて式を変形しようとする。 ・複雑な式の展開やいろいろな因数分解では、置き換えや式の変形などを利用しようとする。	・指導事項： 1. 整式とその加法・減法 2. 整式の乗法 3. 因数分解 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				
	定期考査			○	○		13
				○	○		1
	B 実数 【知識及び技能】 ・数を実数まで拡張することの意義を理解している。・実数が直線上の点と1対1に対応していることを理解している。 ・絶対値の意味を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数を拡張してきた過程を考察することができる。 ・有理数を小数で表すことによって有理数の意味を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・数の体系を実数まで拡張する意義に気付くとともに、数を拡張していく過程に関心をもち、調べようとする。 ・分母に根号を含む式において、分母を有理化する方法に関心をもつ。	・指導事項： 1. 実数 2. 根号を含む式の計算 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				
				○	○		6
	C 1次不等式 【知識及び技能】 ・不等式の性質を基にして、1次不等式を解くことができる。 ・連立不等式の解を数直線上に表すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 不等式の性質を基にして、1次不等式の解き方を考察することができる。 ・1次不等式の解について、数直線と対比したり、いろいろな数値を代入したりして考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・数量の関係を不等式で表し、1次不等式を活用しようとする。 ・具体的な事象の考察に、1次不等式を活用しようとする。	・指導事項： 1. 不等号と不等式 2. 不等式の性質 3. 1次不等式 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				
	定期考査			○	○		8
				○	○		1

2 学 期	D 2次関数 【知識及び技能】 ・座標平面上で、 $y = ax^2$ のグラフを平行移動していく過程を作業を通して理解し、グラフをかくことができる。 ・定義域が限られた2次関数における最大値・最小値は、頂点を考慮して求めることを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・関数 $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形することができる。 ・2次関数のグラフの頂点の座標と軸の方程式を求めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・関数関係を変化する2つの量の関係としてとらえ、式やグラフに表すことに関心をもつ。	・指導事項： 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	E 2次方程式と2次関数 【知識及び技能】 ・ $y=ax^2+bx+c$ のグラフとx軸との共有点のx座標と2次方程式や2次不等式の解について考察できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係を理解し、2次不等式の解を2次関数のグラフを用いて考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・2次関数のグラフとx軸との位置関係について調べて、2次不等式の解のタイプに関心をもつ。	・指導事項： 1. 2次関数のグラフと2次方程式 2. 2次関数のグラフと2次不等式 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	11
	H 集合と論証 【知識及び技能】 ・集合の包含関係など、集合に関する基本的な事項を理解させ、具体的な事象について考察させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・集合の包含関係と関連付けて、必要条件、十分条件、必要十分条件、対偶、背理法などを学習することを通して、論理的な思考力を一層伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 ・命題の逆・裏・対偶の関係が条件を満たす集合の関係に対応していることに気付き、これらについて調べようとする。	・指導事項： 1. 集合 2. 命題と条件 3. 逆・裏・対偶 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など・指導事項	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				12
	定期考査			○	○		1
3 学 期	F 図形と計量 【知識及び技能】 ・三角比を用いた平面図形や空間図形の計量に関する知識を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・三角比や正弦定理・余弦定理などを用いて平面図形や空間図形を計量することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさを調べようとする。・三角比を用いて三角形の面積や空間図形の計量に活用しようとする。	・指導事項： 1. 三角比 2. 三角比の性質 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 三角形の面積 7. 空間図形の計量 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	21
	G データの分析 【知識及び技能】 ・中学校で学習した平均値・最頻値・中央値・四分位数・箱ひげ図について復習し、データの散らばりのようすをとらえる概念として、整理し、理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・データの散らばりのようすをとらえる概念として、分散、標準偏差について理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・データから適切な代表値を得て、散らばり具合を整理し全体の傾向をつかもうとする。	・指導事項： 1. 度数分布 2. 代表値 3. 四分位数と四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. データの相関 6. データの外れ値 7. 仮説検定の考え方 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							合計
							102

高等学校 令和8年度 教科

教科： 数学

対象学年組：第 2 学年 A 組～ G 組

教科担当者：（ A・B・C組：田村 ）（ D・E・F・G組：大倉 ）

使用教科書：（ 新編 数学Ⅱ（数研出版） ）

教科 数学

科目 数学Ⅱ

科目： 数学Ⅱ

単位数： 4 単位

【知 識 及 び 技 能】事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 ・3次の乗法公式および因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解ができる。 ・パスカルの三角形および二項定理を理解し、それらを用いて計算することができる。 ・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、その方法を用いていろいろな整式を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・二項定理を用いて等式を証明することができる。 ・多項式の除法を、整数の除法と関連付けることができる。 ・分数の計算と分数式の計算の類似性を認識して、計算することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ $(a+b+c)^n$ の展開式について調べたり、係数を計算することができる。 ・分母や分子に分数式を含む式の計算に取り組もうとしている。	・指導事項： 1. 整式の乗法 2. 二項定理 3. 整式の除法 4. 分数式 ・教材： 教科書、ワーク ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				13
	B 単元 【知識及び技能】 ・等式、不等式の基本性質や基本的な証明方法を理解している。 ・平方の大小関係について理解して証明に用いることができる。 ・相加平均と相乗平均の大小関係を理解して証明に用いることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・等式や不等式を目的に応じて変形	・指導事項： 5. 等式の証明 6. 不等式の証明 ・教材： 教科書、ワーク ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				5
	定期考査						1
	C 単元 【知識及び技能】 ・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 ・剰余の定理や因数定理について理解し、高次方程式の解法などに因数定理を活用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・解と係数の関係や判別式の意味を理解し、それらを対称式の値を求めるときなどに活用できる。 ・因数定理を用いて整式を因数分解できることから、高次方程式を解くことができることを理解できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・虚数では大小関係を考えないことを考察しようとしている。 ・共役な複素数の性質について調べようとしている。	・指導事項： 7. 複素数 8. 2次方程式 ・教材： 教科書、ワーク ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など				10	
	D単元 【知識及び技能】 ・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 ・2次方程式を複素数の範囲で考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・1次の係数が偶数の2次方程式の解の公式を導くことができ、それを活用しようとする。 ・因数定理を用いて整式を因数分解できることから、高次方程式を解くことができることを理解できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・虚数では大小関係を考えないことを考察しようとしている。 ・共役な複素数の性質について調べ	・指導事項： 9. 因数定理 10. 高次方程式 ・教材： 教科書、ワーク ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				10
定期考査							1

2 学 期	A 単元 【知識及び技能】 - 平面上の2点間の距離や内分点と外分点の座標を求めることができる。 - 方程式で表された直線を図示することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 - 円の方程式を一般形から標準形に変形するために、平方完成を用いることを着想できる。 x、y についての不等式を座標平面上の点の集合として図示する考え方を認識できる。 【学びに向かう力、人間性等】 - 点と直線の距離の公式について、複雑な式変形を根気強く理解しようとしている。 x、y についての2次方程式と図形との関係を調べようとしている。	・指導事項 - 直線上の点 - 平面上の点 - 直線の方程式 - 円の方程式 - 円と直線 - 軌跡と方程式 - 不等式の表す領域 - 連立方程式の表す領域 ・教材： 教科書、ワーク ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	B 単元 【知識及び技能】 - 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解している。 - 三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 三角関数の値の変化やグラフの特徴について考察することができる。 2直線のなす角についてタンジェントの加法定理を用いて解くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 - 三角関数のグラフを活用して、周期や最大・最小などの基本的な性質を考察しようとしている。	・指導事項： - 一般項 - 弧度法 - 三角関数 - 三角関数の性質 - 三角関数のグラフ - 三角関数を含む方程式・不等式 - 加法定理 - 加法定理の応用 ・教材： 教科書、ワーク ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	10
	C 単元 【知識及び技能】 - 指数を有理数に拡張する意義を理解し、指数法則を用いて、指数計算ができる。 - 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算や底の変換ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 - 指数関数の式とグラフの関係について多面的に考察し、指数関数の値の変化やグラフの特徴について考察できる。 - 対数関数を含む方程式や不等式を解くときにも底を揃える必要があることを認識している。 【学びに向かう力、人間性等】 - 指数が拡張されていく過程に興味、関心を示す。 - 常用対数と桁数の関係を一般の場合について調べようとしている。	・指導事項： - 指数の拡張 - 指数関数 - 対数とその性質 - 対数 ・教材： 教科書、ワーク ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	A 単元 【知識及び技能】 - 導関数の定義を理解して計算することができる。 - 導関数と微分係数の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 微分係数の図形的意味を考察できる。 - 変数に関係なく、導関数を求めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 - 導関数のグラフと元の関数のグラフについて多角的に調べようとしている。 - グラフ描画ソフトなどを用いて多角的に調べようとしている。	・指導事項： - 平均変化率と微分係数 - 導関数 - 接線の方程式 - 関数の増減と極大・極小 - 方程式・不等式への応用 ・教材： 教科書、ワーク ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	12
	B単元 【知識及び技能】 - 不定積分および定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和および差の不定積分や定積分の値が求められる。 - 定積分と面積の関係を用いて、関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 - 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 - 面積を表す量として定積分をとることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 - 定積分と微分の関係について、多面的に調べようとしている。 3次関数のグラフと面積について多角的に調べようとしている。	・指導事項： - 不定積分 - 定積分 - 定積分と面積 ・教材： 教科書、ワーク ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	13
	定期考査			○	○	○	1

高等学校 令和8年度 教科 数学 科目 数学B

教科： 数学 科目： 数学B 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 DEG 組

教科担当者： 田村

使用教科書：（ 新編 数学B（数研出版） ）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
- 【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	数列とその和 【知識及び技能】 ・数列の一般項の意味を理解できる。 ・等差数列や等比数列の一般項や初項から第 n 項までの和の求め方を理解し、活用できる。 ・記号Σの意味を理解し、和の公式を理解している。 ・階差数列を利用して、数列の一般項を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数列の一般項 a_n の意味を理解し、等差数列や等比数列の性質に着目して公式を導くことができる。 ・数列を等差数列や等比数列として表現することができる。 ・Σを用いた和の公式やΣの性質を考察することができる。 ・階差数列を活用して一般項を求める考え方を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・数列の一般項や和の記号Σに関心をもち、それを身近な問題の解決に活用しようとする。	指導事項： 1. 数列 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 6. 数列の和とΣの記号 7. 階差数列 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
	いろいろな数列 【知識及び技能】 ・数列の和と一般項の公式を用いて、和を与えられた数列の一般項を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数列の和と一般項の公式で、 $n=1$ を調べる必要性を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・数列の一般項や和の記号Σに関心をもち、数列を身近な問題の解決に活用しようとする。 漸化式と数学的帰納法 【知識及び技能】 ・漸化式で定められる数列の一般項を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漸化式の意味と数列を漸化式で表現することのよさを認識できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・漸化式に関心をもち、数列を漸化式を用いて表現しようとする。	・指導事項： 1. 数列の和と一般項 2. 漸化式 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1

2 学 期	漸化式と数学的帰納法 【知識及び技能】 ・漸化式で定められる数列の一般項を求めることができる。 ・数学的帰納法を理解して、等式などの命題の証明に用いることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漸化式の意味と数列を漸化式で表現することのよさを認識できる。 ・数学的帰納法の意味と考え方を認識し、自然数を用いた命題の考察に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・漸化式に関心をもち、数列を漸化式を用いて表現しようとする。 ・数学的帰納法に関心をもち、命題に対する推論について数学的帰納法を用いて証明しようとする。	・指導事項： 1. 漸化式 2. 数学的帰納法 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
	確率分布と統計的な推測 【知識及び技能】 ・離散型確率変数の確率分布を求められる。確率変数の期待値、分散および標準偏差を求めることができる。 ・確率変数の期待値と分散・標準偏差や和の期待値や独立な確率変数の積の期待値を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・確率変数の考え方と確率分布の意味を理解できる。 ・確率変数の和の期待値や独立な確率変数の積の期待値、和の分散などの公式が、どのような条件のもと利用できるかを理解できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・不確定な事象を確率変数で表し、その性質や特徴を調べようとする。 ・確率変数の和の期待値や独立な確率変数の積の期待値、和の分散などの公式を求めようとする。 二項分布と正規分布 【知識及び技能】 ・二項分布や正規分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ・標準正規分布に従うときの確率を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・二項分布の各値の確率が $P(X=r) = {}^nC_r p^r q^{n-r}$ で与えられることを考察できる。 ・二項分布の期待値・分散・標準偏差の公式を導く過程を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・日常生活の中での二項分布の例を調べようとする。 ・身のまわりにある正規分布に従う事象を考察しようとする。	・指導事項： 1. 確率分布 2. 確率変数と確率分布 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	9
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	二項分布と正規分布 【知識及び技能】 ・二項分布を正規分布による近似で、確率を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・標準正規分布に従うときの確率を求めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・日常生活の中での二項分布の例を調べようとする。 ・身のまわりにある正規分布に従う事象を考察しようとする。 統計的な推測 【知識及び技能】 ・母集団分布からその母平均、母分散、母標準偏差を求めることができる。 ・標本平均を正規分布とみなして、確率を求めることができる。 ・正規分布による近似を用いた平均や比率の推定および仮説検定について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・標本調査の必要性和その考え方を認識できる。 ・無作為抽出の考え方や標本のもつ傾向から母集団のもつ傾向を推測する考え方を認識できる。 ・信頼区間の意味や仮説検定の方法について考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・無作為抽出や無作為標本について、その仕組みを調べようとする。 ・区間推定や仮説検定を用いて身のまわりの不確定な事象を考察しようとする。	・指導事項： 1. 二項分布 2. 正規分布 3. 母集団と標本 4. 標本平均の分布 5. 統計的な推測 ・教材：教科書、ワーク ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学C

教科： 数学 科目： 数学C 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ G 組

教科担当者：石川・小林

使用教科書：（新編 数学C（数研出版））

- 教科 数学 の目標：
- 【知識及び技能】 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学C の目標：	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	複素数平面 【知識及び技能】 ・複素数平面上に点を図示できる。 ・複素数の絶対値や和、差、実数倍の表示ができる ・極形式について理解し、複素数の積や商の計算ができる。 ・複素数の表す図形を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ド・モアブルの定理を用いて複素数の累乗根を求めることができる。 ・条件を満たす複素数の描く図形を理解することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 出席状況、発言、提出物等	・指導事項： 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形 ・教材：教科書、問題集 ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				4
	ベクトル 【知識及び技能】 ・ベクトルの演算について理解する。 ・ベクトルの成分について理解し、演算等ができる。 ・内積について理解し、値を求めることができる。 ・複素数の表す図形を理解できる。 ・空間の座標や平面について理解する。 ・球面について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・位置ベクトルを用いて図形の証明などができる。 ・条件を満たす複素数の描く図形を理解することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 出席状況、発言、提出物等	・指導事項： 1. 平面上のベクトル 2. ベクトルの応用 3. 空間ベクトル ・教材：教科書、問題集 ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				2
	定期考査			○	○	○	1
	平面上の曲線 【知識及び技能】 ・放物線、楕円、双曲線について理解する。 ・極座標で表された点について理解し、直交座標に変換できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・直交座標の方程式と極方程式を相互に変換できる。 【学びに向かう力、人間性等】 出席状況、発言、提出物等	・指導事項： 1. 2次曲線 2. 媒介変数表示と極座標 ・教材：教科書、問題集 ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				8
	定期考査			○	○	○	1

2 学 期	総合演習 【知識及び技能】 ・公式の確認 【思考力、判断力、表現力等】 ・入試問題等の演習。 【学びに向かう力、人間性等】 出席状況、発言、提出物等	・指導事項： 1. 総合演習 ・教材：教科書、問題集 ・一人1 台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回 収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				10
	定期考査			○	○	○	1
	総合演習 【知識及び技能】 ・公式の確認 【思考力、判断力、表現力等】 ・入試問題等の演習。 【学びに向かう力、人間性等】 出席状況、発言、提出物等	・指導事項： 1. 総合演習 ・教材：教科書、問題集 ・一人1 台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回 収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				8
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期							
							合計 36

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅰ・A演習

教科： 数学 科目： 数学Ⅰ・A演習 単位数： 3 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ G 組

教科担当者：石川・小林

使用教科書： ジュニア演習数学Ⅰ・A（数研出版）

- 教科 数学 の目標：
- 【知識及び技能】 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学Ⅰ・A演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	数と式/2次関数 【知識及び技能】 ・展開や因数分解の公式を用いて展開、因数分解ができる。 ・有理数について理解し、実数の範囲で計算ができる。 ・座標平面上で、 $y = ax^2$ のグラフを平行移動していく過程を作業を通して理解し、グラフをかくことができる。 ・定義域が限られた2次関数における最大値・最小値は、頂点を考慮して求めることを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・置換などを使い複雑な式の展開や因数分解ができる。 ・関数 $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形することができる。 ・2次関数のグラフの頂点の座標と軸の方程式を求めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 出席状況、発言、提出物等	・指導事項： 1. 式の計算 2. 実数 3. 1次不等式 4. 集合と論証 5. 2次関数のグラフ ・教材：教科書 ・一人1台端末の活用：画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み				12
	定期考査			○	○	○	1
	2次関数/図形と計量/データの分析 【知識及び技能】 ・2次関数のグラフと方程式のの解について理解する。 ・2次関数のグラフと不等式の解について理解する。 ・三角比について理解する。 ・四分位数、箱ひげ図、分散、標準偏差等について理解する。 ・データの相関について理解し、相関係数を求められるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・抽象的な表現で与えられた関数のグラフを理解できる。 ・文字を含んだ関数や不等式を解くことができる。 ・2次関数のグラフの頂点の座標と軸の方程式を求めることができる。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて問題を解くことができる。 ・箱ひげ図や散布図からデータの特徴を読み取ることができる。 ・標準偏差などの複雑な計算ができる 【学びに向かう力、人間性等】 出席状況、発言、提出物等	・指導事項： 1. 2次方程式と2次不等式 2. 三角比 3. 三角比と図形の計量 4. データの整理 5. データの分析 ・教材：教科書 ・一人1台端末の活用： 画像の共有、小テストの配布回収、動画配信など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】				10
	定期考査			○	○	○	1

2 学 期	総合演習 【知識及び技能】 ・ 公式の確認 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 試問題等の演習。 【学びに向かう力、人間性等】 出席状況、発言、提出物等						10
							1
	総合演習 【知識及び技能】 ・ 公式の確認 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 試問題等の演習。 【学びに向かう力、人間性等】 出席状況、発言、提出物等						8
							1
3 学 期							
合 計							44

高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅲ

教 科： 数学 科 目： 数学Ⅲ 単位数： 3 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ G 組

教科担当者：小林

使用教科書：（ 新編数学Ⅲ（数研出版） ）

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
1 学 期	・分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、既に学習した関数の性質と関連付けて多面的に考察するとともに、合成関数や逆関数の意味を理解し、それらを求めることができるようにする。 ・数列の極限について理解し、数列の極限を求められるようにする。 ・無限級数の収束、発散について理解し、無限級数の和を求められるようにする。 ・関数の値の極限について理解できるようにする。	1 章 関数と極限 1 節 関数 1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数 2 節 数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 3 節 関数の極限 1 関数の極限 2 関数の連続性	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み		○	○	○	33
	・微分可能性、関数の積及び商の導関数、合成関数の導関数について理解し、それらの導関数を求められるようにする。	2 章 微分法 1 節 微分法 1 微分係数と導関数 2 合成関数と逆関数の微分法	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み		○	○	○	4
	定期考査				○	○		1
	・導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察して、理解し、それらを求められるようにする。	2 節 いろいろな関数の導関数 1 いろいろな関数の導関数 2 曲線の方程式と導関数 3 高次導関数	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み		○	○	○	7
	・関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできるようにする。 ・微分法を用いて、事象を数学的に捉え、問題を解決することを通して、微分法の有用性を認識できるようにする。	3 章 微分法の応用 1 節 接線、関数の増減 1 接線と法線 2 平均値の定理 3 関数の増加・減少と極大・極小 4 関数のグラフ 2 節 いろいろな微分法の応用 1 関数の最大・最小 2 方程式・不等式への応用 3 速度・加速度 4 近似式	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み		○	○	○	20
	定期考査				○	○		1

2 学 期	- 不定積分の基本的な性質について理解し、それらを用いて不定積分が求められるようにする。 - 置換積分法及び部分積分法について理解し、不定積分が求められるようにする。 - 定積分の基本的な性質について理解し、それらを用いて不定積分が求められるようにする。 - 置換積分法及び部分積分法について理解し、それらを用いて定積分が求められるようにする。	4章 積分法 1節 不定積分 1 不定積分とその性質 2 置換積分法 3 部分積分法 4 いろいろな関数の不定積分 2節 定積分 1 定積分とその性質 2 定積分の置換積分法と部分積分法 3 定積分と和の極限 4 定積分と不等式	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	立体の体積、曲線の長さなどを求める方法について考察するとともに、定積分を利用して、曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積、曲線の長さなどを求められるようにする。	3節 積分法の応用 1 面積 2 体積 3 曲線の長さとのり	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	11
3 学 期	1年間の復習	総合演習	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	12
							合計
							108

高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 数学 科目 数学演習

教 科： 数学 科 目： 数学演習 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ G 組

教科担当者：小林

使用教科書：（ 新編数学Ⅲ（数研出版） ）

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
1 学 期	・分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、既に学習した関数の性質と関連付けて多面的に考察するとともに、合成関数や逆関数の意味を理解し、それらを求めることができるようにする。 ・数列の極限について理解し、数列の極限を求められるようにする。 ・無限級数の収束、発散について理解し、無限級数の和を求められるようにする。 ・関数の値の極限について理解できるようにする。	1 章 関数と極限 1 節 関数 1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数 2 節 数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 3 節 関数の極限 1 関数の極限 2 関数の連続性	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み		○	○	○	22
	・微分可能性、関数の積及び商の導関数、合成関数の導関数について理解し、それらの導関数を求められるようにする。	2 章 微分法 1 節 微分法 1 微分係数と導関数 2 合成関数と逆関数の微分法	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み		○	○	○	2
	定期考査				○	○		1
	・導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察して、理解し、それらを求められるようにする。	2 節 いろいろな関数の導関数 1 いろいろな関数の導関数 2 曲線の方程式と導関数 3 高次導関数	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み		○	○	○	4
	・関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできるようにする。 ・微分法を用いて、事象を数学的に捉え、問題を解決することを通して、微分法の有用性を認識できるようにする。	3 章 微分法の応用 1 節 接線、関数の増減 1 接線と法線 2 平均値の定理 3 関数の増加・減少と極大・極小 4 関数のグラフ 2 節 いろいろな微分法の応用 1 関数の最大・最小 2 方程式・不等式への応用 3 速度・加速度 4 近似式	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み		○	○	○	14
定期考査					○	○		1

2 学 期	- 不定積分の基本的な性質について理解し、それらを用いて不定積分が求められるようにする。 - 置換積分法及び部分積分法について理解し、不定積分が求められるようにする。 - 定積分の基本的な性質について理解し、それらを用いて不定積分が求められるようにする。 - 置換積分法及び部分積分法について理解し、それらを用いて定積分が求められるようにする。	4章 積分法 1節 不定積分 1 不定積分とその性質 2 置換積分法 3 部分積分法 4 いろいろな関数の不定積分 2節 定積分 1 定積分とその性質 2 定積分の置換積分法と部分積分法 3 定積分と和の極限 4 定積分と不等式	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	立体の体積、曲線の長さなどを求める方法について考察するとともに、定積分を利用して、曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積、曲線の長さなどを求められるようにする。	3節 積分法の応用 1 面積 2 体積 3 曲線の長さとのり	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	8
3 学 期	1年間の復習	総合演習	定期考査 小テスト ノート提出 グループワークの取り組み 授業中の取り組み	○	○	○	8
							合計
							73